＜株式会社エフエム東京　第 490 回放送番組審議会＞

１．開催年月日：令和 4 年 7 月 5 日（火）

２．開催場所：エフエム東京 本社 11 階 JET STREAM 大会議室

３．委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名　社内 0 名）

◇出席委員（5 名）
ロバート キャンベル　委員長　　川 上 未 映 子　委員
佐 々 木 俊 尚　委員　　松　田　紀　子　委員
山　口　真　由　委員

◇欠席委員（1 名）
秋　　元　　康　委員

◇社側出席者（7 名）
唐　島　代表取締役会長
小　川　取締役
内　藤　執行役員編成制作局長
延　江　編成制作局ゼネラルプロデューサー
宮　野　編成制作局次長 兼 編成部長
若　杉　編成制作局制作部長
砂　井　番組プロデューサー

◇社側欠席者（1 名）
黒　坂　代表取締役社長

【事務担当　内藤放送番組審議会事務局長】

４．議題：番組試聴　（約 30 分）
「TOKYO FM 山下達郎 ニューアルバム『SOFTLY』リリース記念ワンデースペシャル Supported by 楽天カード」
2022 年 6 月 22 日　（水）6：00～21：00　放送のダイジェスト

≪議事内容≫

議題 1:最近の活動について

■TOKYO FM と週刊文春がコラボ「週刊文春×TOKYO FM 1day Special」実施

TOKYO FM では 6 月 15 日（水）に、雑誌「週刊文春」とタイアップした「週刊文春×TOKYO FM 1day Special」を実施いたしました。午前のワイド番組『Blue Ocean』から『SCHOOL OF LOCK!』までの 7 番組に、「週刊文春」で連載を持つ文化人や同誌編集長、電子版コンテンツディレクター、記者たちがゲスト出演。“文春砲”スクープの裏側、週刊誌編集長・記者というお仕事についてたっぷりと伺いました。

それに先駆けて、6 月 9 日（木）発売「週刊文春」には、TOKYO FM パーソナリティ陣が誌面に続々登場しました。

▲6/15　毎日新聞広告

【委員の意見および社側説明】
（「○」委員意見／「■」社側意見）

○このタイアップには広告出稿は含まれているのか。

■純粋な媒体同士のコラボレーション企画で広告（費用）は発生していない。

○TOKYO FM 側のメリットのようなものはあったのか。

■週刊文春には 40 代、50 代、60 代～の読者がいて、TOKYO FM としては 40 代の強化というテーマもあり、実際に企画の反響は大きかった。

○とてもおもしろい取り組みだと感じた。総合週刊誌の発行部数は全盛期に比べてかなり減り、読者が高齢化していると聴いている。以前に別の雑誌の担当者が、若返りを図るために内容を若者向けに路線変更したら、それまでの高齢読者が離れ、若者の流入がなく読者を減らすだけだったと言っていた。ラジオでも同じことが起きている局があるように感じるが、TOKYO FM は世代交代、若者の流入が成功している局だと感じている。

議題２：番組試聴
【番組名】
「TOKYO FM 山下達郎 ニューアルバム『SOFTLY』リリース記念ワンデースペシャル Supported by 楽天カード」
2022 年 6 月 22 日 （水）6：00～21：00 放送のダイジェスト

【番組概要】
本日ご試聴いただくのは、6 月 22 日（水）に実施した「TOKYO FM 山下達郎 ニューアルバム『SOFTLY』リリース記念ワンデースペシャル Supported by 楽天カード」のダイジェストです。
11 年ぶりの新作となるニューアルバム『SOFTLY』発売日当日の 6 月 22 日（水）に、山下達郎氏が TOKYO FM の 8 つの番組に出演しました。住吉美紀氏、坂本美雨氏、LOVE 氏、ハマ・オカモト氏、マンボウやしろ氏という多彩な TOKYO FM パーソナリティ陣がそれぞれのアングルから対談を行いました。また当日は朝 6 時から夜 21 時まで、『SOFTLY』の収録楽曲はもちろん、“新旧全曲！山下達郎ソング”をオンエアしました。

放送日時：6 月 22 日（水）6:00～21:00
出演番組一覧
『ONE MORNING』（6:00～9:00/ユージ、吉田明世）【コメント出演】
『住吉美紀の Blue Ocean』 （9:00～11:00/住吉美紀）【ゲスト出演】
『ALL-TIME BEST ～LUNCH TIME POWER MUSIC～』（11:30～14:00/LOVE） 【ゲスト出演】
『ディア・フレンズ』（11:00～11:30/坂本美雨）【ゲスト出演 6 月 23 日（木）も出演】
『山崎怜奈の誰かに話したかったこと。』（13:00～14:55/乃木坂 46・山崎怜奈）【コメント出演】
『THE TRAD』 （15:00～16:50/ハマ・オカモト、中川絵美里） 【ゲスト出演】
『Skyrocket Company』 （17:00～19:48/マンボウやしろ、浜崎美保） 【ゲスト出演】
『Roomie Roomie!』 （20:00～20:55/眉村ちあき） 【コメント出演】

上記の中から『住吉美紀の Blue Ocean』、『ALL-TIME BEST ～LUNCH TIME POWER MUSIC～』、『THE TRAD』、『Skyrocket Company』4 番組の対談の模様を 30 分にまとめたダイジェストをお聴きください。

【委員の意見および社側説明】
（「○」委員意見／「■」社側意見）

○大変楽しく聴いた。『Blue Ocean』、『ALL-TIME BEST ～LUNCH TIME POWER MUSIC～』、『THE TRAD』、『Skyrocket Company』、それぞれのパーソナリティがそれぞれの視点から質問を投げかけ、山下達郎氏がそれに答える。その答えが大変奥深く、それでいて面白い。ユーモアのセンスも感じた。

○『Blue Ocean』の住吉美紀氏は、引き出すのがとても上手いと感じた。常に落ち着いたトーンで、本当に興味を持って聴いているのが伝わってきた。「生活者として共感する部分が多い」という住吉美紀氏の感想から「僕も普通の人間なんですよ。安保闘争の時に大学をドロップ・アウトしてミュージシャンの道を歩んだ。別に芸能界に入ってスターになってやろうとかではなかった。それがリスナーとの距離の近さになっていると思う」「ライブで前から 3 列目に座っているお客さんとステージの僕が入れ替わっていても不思議ではなかった。そういう人間がラジオをやっている。音楽においても生活者の糧になるようなものを作りたい」という、とても説得力のある答えを引き出していた。一方で『Skyrocket Company』のマンボウやしろ氏は、山下達郎氏のコメントをそのまま繰り返していて、物足りなさが残った。また、ハマ・オカモト氏の熱さが印象的。以前、細野晴臣氏との対談でもそうだったが、ミュージシャンという立場で対等に、非常にマニアックな質問を投げかけていて、それがいかにもラジオ的で、予定調和的ではないところが面白いと感じた。

○丸 1 日と長い企画で、各番組に出演していたが、どの番組でどんな話をするか構成は予め番組側で決めていたのか、それとも山下達郎氏次第だったのか。

■予め、こちらで構成や台本を用意し、番組ごとに割り振っていたが、実際は収録が始まればそれぞれのパーソナリティの聴きたいことが沢山あり、脱線したり膨らんだりした。結果的にそれぞれのパーソナリティの特性が活きた自然な流れでの収録となった。
山下達郎氏がツアー中ということもあって、ほとんど事前収録形式だったが、『Skyrocket Company』だけは生放送だった。そのため尺も一番短い中での放送だった。

○とても楽しく聴いた。山下達郎氏は（ご自身のラジオ番組では）、洋楽の懐メロを聴かせてくれる方という認識で、実はこれまで山下達郎氏の音楽はあまり聴いたことがなかった。ただ私の周りでは、尖がったセンスの持ち主、感度の高い人は皆、山下達郎氏を支持していて、その理由が今回とてもよくわかった気がする。山下達郎氏は様々なことを考え抜いた上で真摯に音楽に向き合い、そして生活し、生

きているということが分かった。そして話は面白く、茶目っ気もあり、ウィットにも富んでいる。

〇別の委員からマンボウやしろ氏の質問は不足だったと意見があったが、私は逆で、マンボウやしろ氏が「達郎さんも、人生とは長い夢を見ているんじゃないかと 40 歳前後の時に感じたことはありますか」「想像世界と現実がパキッと分かれていたことがありますか」「達郎さん自体が存在していないんじゃないかってリスナーからのメールもありました」というような普通は滅多には聞けない漠然とした質問を投げかけ、そこから「自分が実在しているのかどうかとかおぼろげだった」「音楽はイリュージョン。文字は人が作ったものだが、音楽はもっと超常現象のようなもの。」「存在していないってよく言われますよ。ツチノコみたいだとか」という他ではあまり聴かないようなユニークな答えを引き出していて興味深かった。

〇この日の放送は、リアルタイムで拝聴していたが、「ONE MORNING」の中で、朝のルーティーンを山下達郎氏が紹介していて、「鼻うがいをする」といっていた。声や喉を大切にしてのことだと思うが、こんなビッグな人もそうするんだなと、とても親近感を感じた。

〇大変楽しく聴いた。40 代になると、いろんなことを考える。「仕事への向き合い方」とか「毎日をどう生きるべきか」とか、あるいは「私はどうやって死んでいくんだろう」とか。山下達郎氏の話には、そうした人生の本質に関するテーマというか感じることに対する答えがあって、本当に素晴らしい。これまでの山下達郎氏の経験や仕事、人生に対する向き合い方から生まれてくる話がものすごい説得力を持っている。山下達郎氏の音楽は音楽偏差値が高い人が聴いていて、私なんかが軽く好きとはいえない雰囲気を感じる時があるが、何故そういう層から強い支持を持つのか、改めて理解した。

〇ここ最近、アルバムのプロモーションの取材なのかネットメディアなど活字でもたくさん山下達郎氏の記事を目にして、「サブスクはやらない、何故なら音楽を作っている人にお金が落ちないから」など、本当にいろいろと考えている人だと改めて感じた。活字メディアでは音楽がかからないので、ラジオで聴くことができたのは良かったと思う。

〇今、70～80 年代シティポップがメディアでもよく取り上げられ流行っていることから、当時もとても流行ったように感じるが、実際の 70 年～80 年代当時はものすごく流行っているジャンルではなく、どちらかというと女子供が聴く音楽だ、と世間では認識されていた節がある。当時は反体制というかロックがメインだったと記憶している。そしてその後、バブル期を迎え世の中は派手になり、経費は使い放題という時代を経て、今がある。時代の変遷の傍らで、山下達郎氏はずっと変わ

らず音楽に向き合い続けてきたのだと思う。それが今、若い人を含め強く支持されていることに繋がっているのだと思う。

○アルバムのプロモーションで出演したと思うが、宣伝トークがほとんどなく、とても興味深い話が聴くことができ、良い企画だった。

■今回は、他局の番組にも出演があった。レギュラー番組という関係値があることはもちろんだが、なかなかこのクラスのアーティストが多忙の中これだけの時間を割いて 9 番組に出演してくれるということは少ない。毎晩違う組み合わせで対談放送をしている「SPEAKEASY」形式ではないが、いろんな対談としてお届けできたらと考えての企画だった。良い放送にできて良かったと感じている。

6.議事内容を以下の方法で公表した。
① 放送:番組「ドライバーズインフォ」
7 月 30 日（土）5:55～6:00 放送
② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き
③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 https://www.tfm.co.jp/